

北海道及び釧路・根室地域における観光者の食消費等実態調査分析

目次

調査の概要	1
釧路・根室地域の概要	2
北海道地域の概要	18

平成 17 年 12 月 15 日

釧路公立大学地域経済研究センター
財団法人日本交通公社

調査研究協力：釧路開発建設部

消費実態等調査の概要

□ 調査のねらい

釧根地域および北海道全域における食に関する消費実態を明らかにし、それぞれの地域において食の付加価値を高めるような取り組みを推進した際の消費拡大の可能性について探る。また、両地域での結果を比較することにより、釧根地域での消費実態等の特徴を明らかにする。

□ 調査概要

- ・ インターネットによる調査
- ・ 対象者は、北海道を除く全国 18 歳以上の男女で、当該地域への 1 年以内の来訪経験者とする
- ・ サンプル数は、釧根地域 200 と北海道全域（釧根地域を除く）300 の計 500 とする

□ 調査項目

【属性】

- － 住まい／年齢／性別／今回の旅行目的／訪問経験地域（道内）
／普段からの旅行目的

※北海道全域サンプルについては、訪れた地域も質問

【現在の「食」に関する消費実態】

（朝食・昼食・夕食それぞれについて）

- － 平均支出費用
- － 食事場所や内容を決める際に重視した項目

（全体を通して）

- － 飲食に関連した不満点

【「食」に関して支払い可能な限度額】

（朝食・昼食・夕食それぞれについて）

- － 支払限度額
- － 上記限度額を支払う際に重視したい項目

◎ 重視項目選択肢

- | | | |
|--------------|--------------|------------------|
| ① 地元食材の活用 | ② 地元の食文化 | ③ プライベートな空間 |
| ④ 地元住民との触れ合い | ⑤ 季節モノ | ⑥ 接客サービス |
| ⑦ TV・雑誌での知名度 | ⑧ 値ごろ感 | ⑨ 手頃感・安心感(CVS 等) |
| ⑩ 宿泊・ツアーに含む | ⑪ バイキング・食べ放題 | ⑫ 重視項目なし |

釧路・根室地域における実施結果

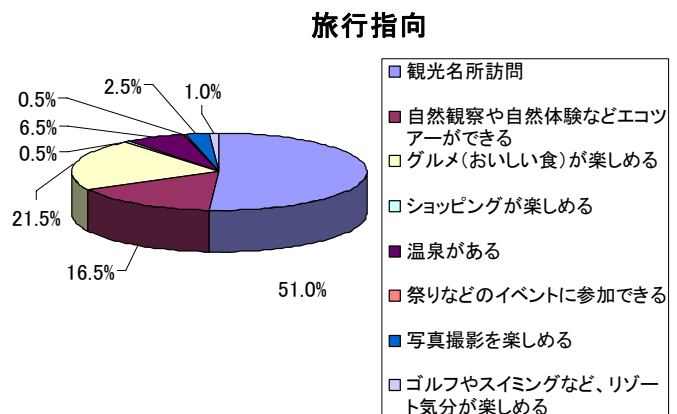
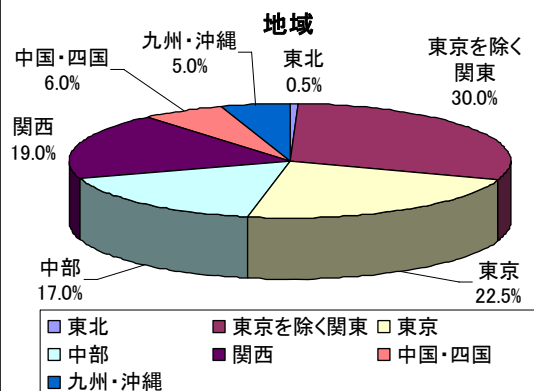
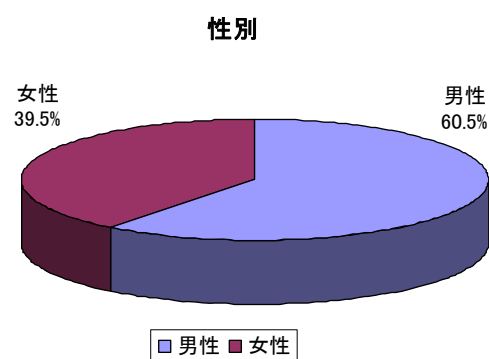
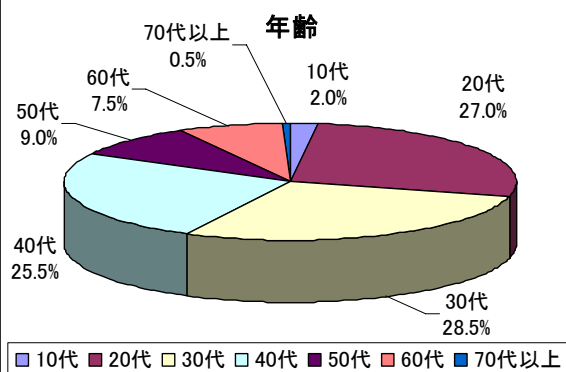
目次

1. 現在の「食」に関する消費実態……………3
2. 「食」に関して支払い可能な限度額……………10
3. 限度額支払い時と現状間における重視項目の比較……………16

実施概要

同調査の実施概要は以下の通りである。

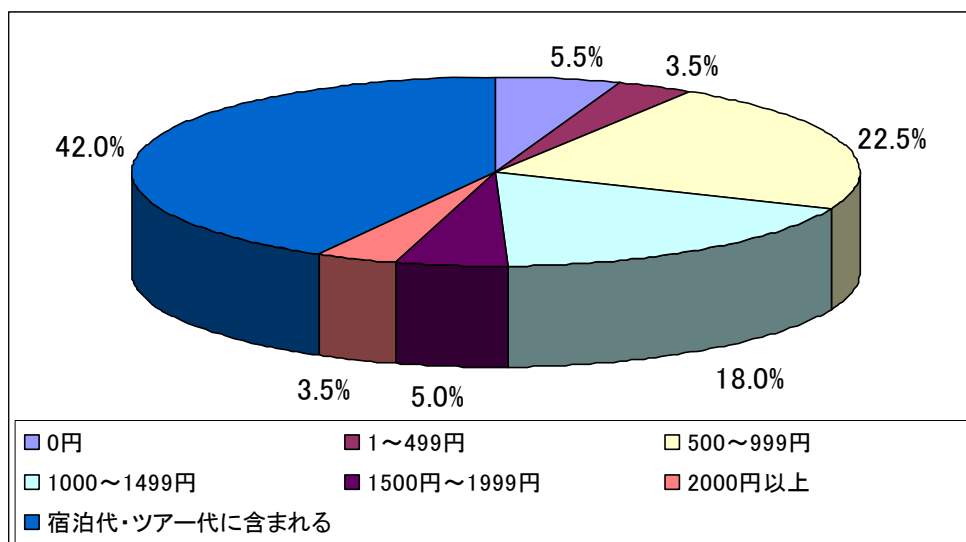
- 調査時期 : 平成 17 年 11 月
- 調査対象 : 北海道を除く全国 18 歳以上の男女で、1 年以内に釧路地域へ来訪経験がある人
- 調査方法 : インターネット調査
- 調査数 : 200 票
- 回答者属性 : 以下の通り



1. 現在の「食」に関する消費実態

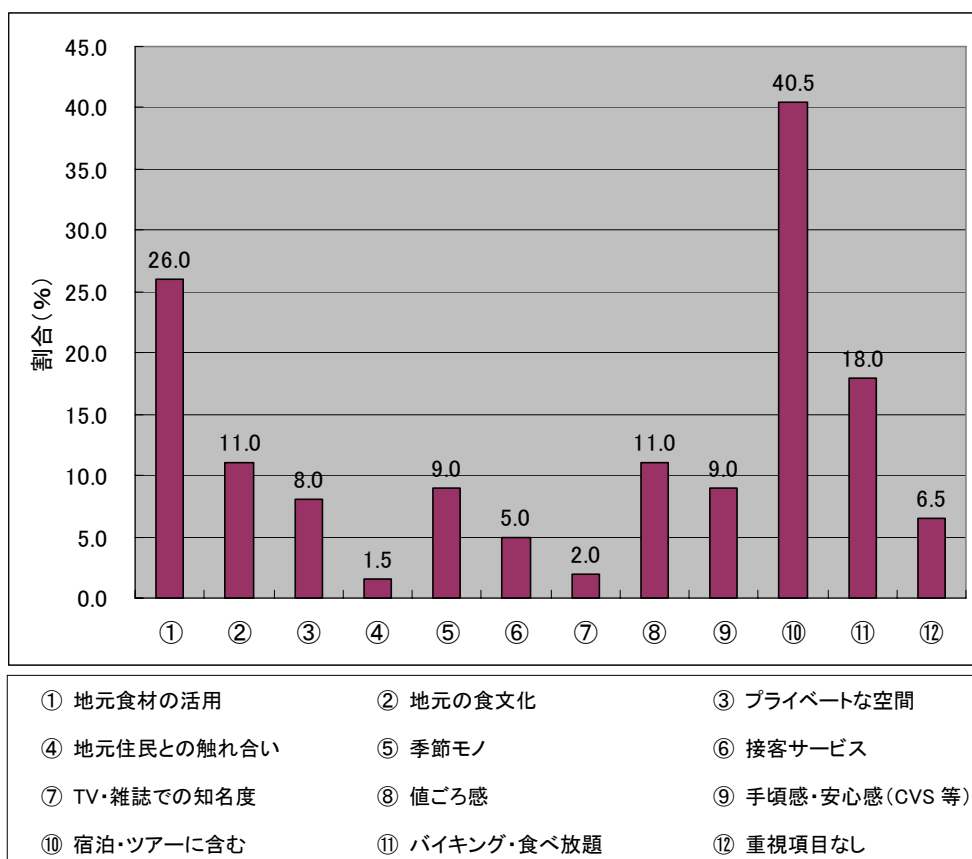
(1)朝食について

- ・ 前回の旅行における「朝食に費やした費用（1回当たり平均）」を尋ねた結果、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答が 42.0%、「500～999 円」とした回答が 22.5%、「1000～1499 円」とした回答が 18.0%となっている。**7 割以上の旅行者は朝食に新たに支出する金額が 1000 円未満**であることが分かる。



- ・ 年齢別に見ると、中高年層において支出金額が高い傾向が見られ、50 代の回答者層については「1500～1999 円」とした回答が 16.7%にのぼっている。
- ・ 一方で若い回答者層では、支出金額が低い傾向が見られ、1000 円未満（「0 円」「1～499 円」「500～999 円」とした回答がほぼ 4 割（39.6%）に達した。
- ・ 男女間の回答における支出金額に大きな差は見られないが、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答は女性において高い比率となっている（女性 54.4%、男性 33.9%）。
- ・ 旅行志向別に見ると、「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が高い傾向が見られ、1000 円以上支出している回答者が 44.2%にのぼった（「1000～1499 円」30.2%、「1500～1999 円」9.3%、「2000 円以上」4.7%）。
- ・ また、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答は、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者で高く（47.1%）、「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者で低い（34.9%）傾向が見られた。

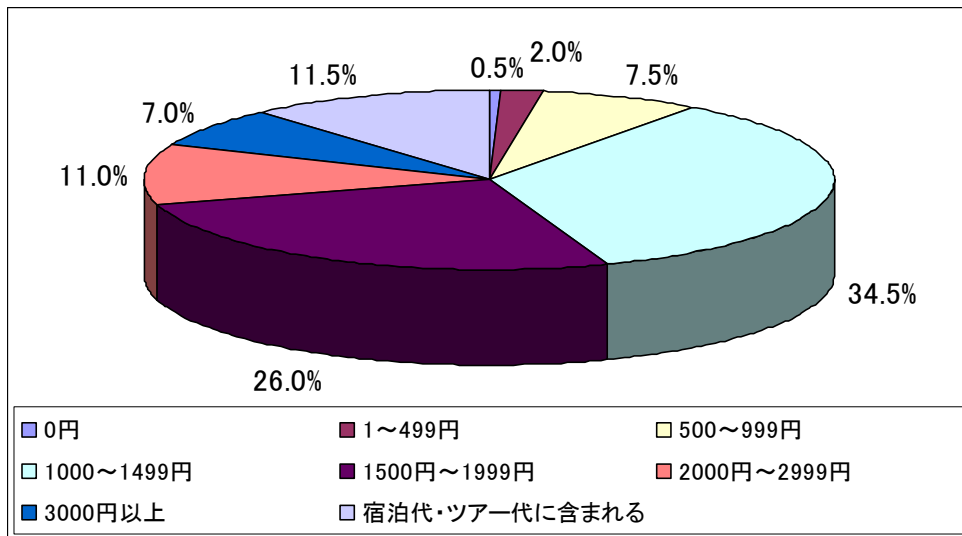
- ・ 前回の旅行の朝食における「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「宿泊・ツアーに含まれていた」とした回答を除くと、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く 26.0%、次いで「バイクングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」とした回答が 18.0%となっており、地産地消に対するニーズが高まっているのと同時に、従来型のバイクング形式の朝食に対するニーズも依然として強いことが分かる。



- ・ 年齢別に見ると、中高年層における「バイクング・食べ放題」へのニーズは低く、50代における「バイクングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」とした回答は 5.6%にとどまった。
- ・ 男女別に見ると、男性において「値ごろ感がある」とした回答が高かった他（男性 15.7%、女性 3.8%）、「地元の食文化が感じられる」「その季節にしか味わえない旬のものがある」など食事内容に関する項目が男性において高く（それぞれ男性 13.2%、10.7%）、「プライベートな空間で落ち着いて食事ができる」「バイクングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」など雰囲気や提供システムに関する項目が女性において高い（それぞれ女性 10.1%、21.5%）傾向が見られる。
- ・ 旅行志向別に見ると「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「地元産食材を活用している」とする回答が 41.9%と非常に高い。

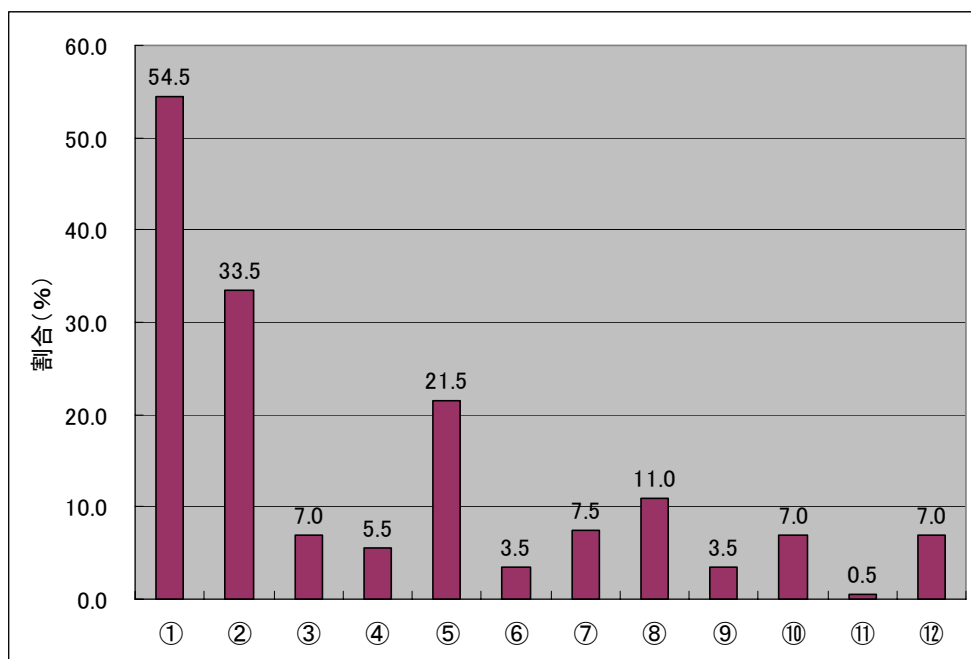
(2) 昼食について

- 前回の旅行における「昼食に費やした費用(1回当たり平均)」を尋ねた結果、「1000～1499円」とした回答が最も多く34.5%、次いで「1500～1999円」とした回答が26.0%となっており、**6割の旅行者が1000円台の昼食を取っている**ことが分かる。昼食において「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答は11.5%と、42.0%にのぼった朝食における値に比べると低い結果となった。



- 年齢別に見ると、年齢層が上がるほど支出額が高くなる傾向があり、40代以下の各年齢層では「1000～1499円」とした回答が最も多く、50代以上の各年齢層では「1500～1999円」とした回答が最も多くなった。
- 男女別に見ると、女性の方が支出額が高い傾向が見られ、女性で1000円未満の回答をした回答者は1.3%にとどまった(男性15.7%)。
- また、男性で最も多い回答は「1000～1499円」で35.5%(女性32.9%)、女性で最も多い回答は「1500～1999円」で35.4%(男性19.8%)となっている。
- 旅行志向別に見ると、「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が高い傾向が見られ、1500円以上支出している回答者が約7割にのぼった(「1500～1999円」27.9%、「2000～2999円」27.9%、「3000円以上」7.0%)。
- また、朝食事と同様、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答は、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者で高く(13.7%)、「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者で低い(7.0%)傾向が見られた。

- ・ 前回の旅行の昼食時における「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「宿泊・ツアーに含まれていた」とした回答を除くと、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く 54.5%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 33.5%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 21.5%となっており、食事内容に地域性・季節性を求めている結果となった。



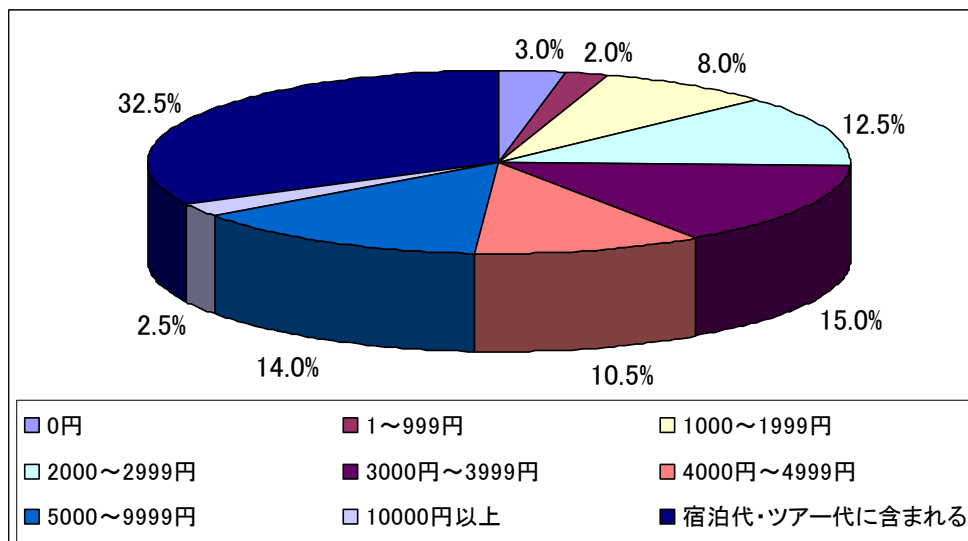
① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

- ・ 年齢別に見ると、年齢層による特徴的な違いはそれほど見られないが、朝食時において 18.0%を占めた「バイキング・食べ放題」へのニーズは低く、50代以下の回答者においては「バイキングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」とした回答は0であった。
- ・ 男女別に見ると、「地元産食材を活用している」（女性 68.4%、男性 45.5%）、「地元の食文化を感じられる」（女性 41.8%、男性 28.1%）とする回答が女性において高い。
- ・ 一方で、男性においては「値ごろ感がある」（男性 14.0%、女性 6.3%）、「特に何も重視しなかった」（男性 10.7%、女性 1.3%）とした回答が女性に比べて高く、食事内容について男性のニーズが高かった朝食時とは異なる結果となった。
- ・ 旅行志向別に見ると「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「地元産食材を活用している」とする回答が 79.1%と非常に

高い。

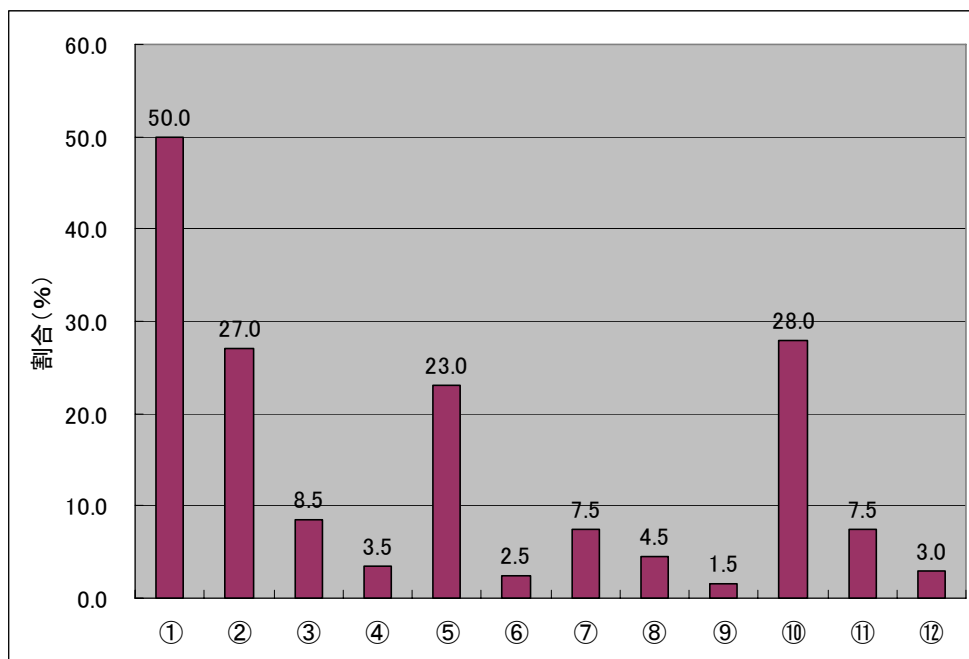
(3) 夕食について

- 前回の旅行における「夕食に費やした費用（1回当たり平均）」を尋ねた結果、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答が最も多く 32.5%となっている。その他の各支出金額に対する回答はそれぞれ 10~15%のものが多く、様々な形態の夕食が取られていることが推測される。



- 年齢別に見ると、年齢層が上がるほど支出額が高くなる傾向があり、20代以下では「2000~2999円」、30代は「3000~3999円」、40代は「4000~4999円」とした回答が最も多くなった（50代は「3000~3999円」「4000~4999円」「5000~9999円」が同率1位）。
- 男女別に見ると、女性の方が支出額が高い傾向が見られ、女性で最も多い回答は「5000~9999円」で19.0%、男性で最も多い回答は「4000~4999円」で17.4%となっている。
- 旅行志向別に見ると、「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が高い傾向が見られ、「5000~9999円」とした回答が最も多く30.2%にのぼった。
- 一方で、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答が非常に多く39.2%となった（次に多い回答は、「3000~3999円」で17.6%）。

- ・ 前回の旅行の昼食時における「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「宿泊・ツアーに含まれていた」とした回答を除くと、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く 50.0%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 27.0%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 23.0%となっており、昼食時と同順位となっている（ただし割合は昼食時の方が少し高い）。



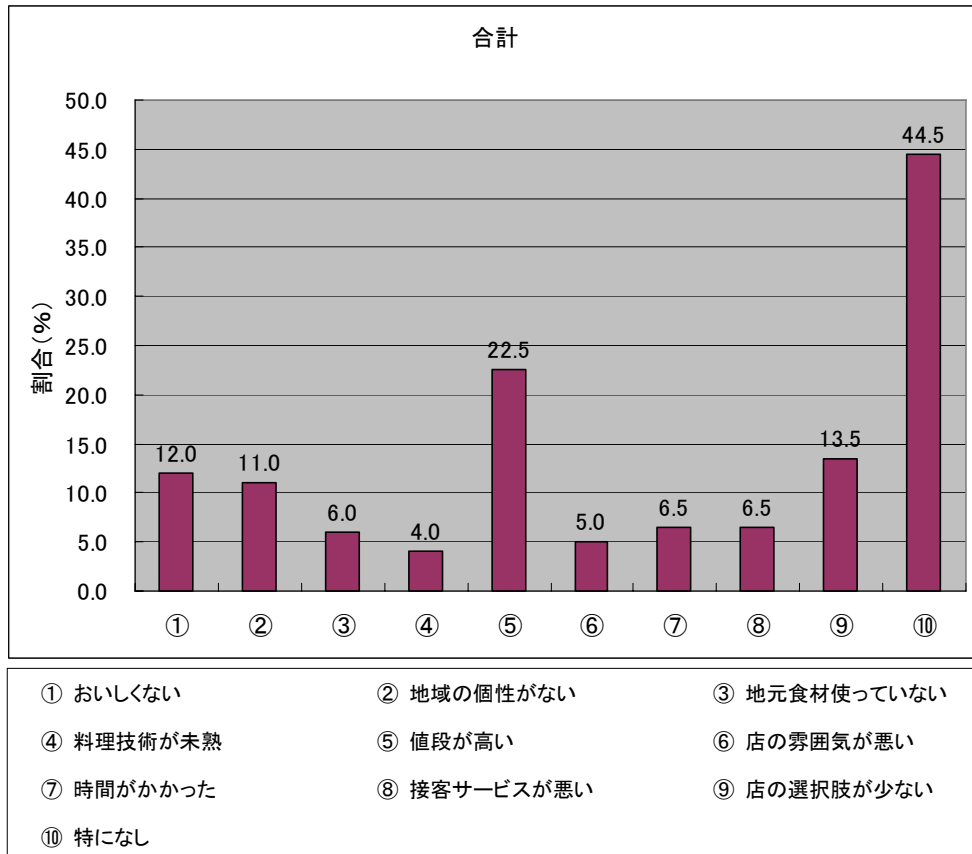
① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイクキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

- ・ 年齢別に見ると、他の年齢層に比べて 50 代の「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が高く、44.4%となっている。
- ・ また、20 代以下の「テレビや雑誌などで紹介されて知名度がある」とした回答は他の年齢層に比べて低く、1.7%にとどまっている。
- ・ 男女別に見ると、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が男性において高く（男性 28.1%、女性 15.2%）、女性については男性より特徴的に高い項目は特に見られない。
- ・ 旅行志向別に見ると「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「地元産食材を活用している」（55.8%）「地元の食文化が感じられる」（44.2%）とする回答が多い。
- ・ 一方、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は、バイクキング・食

べ放題に対するニーズが他回答者に比べて 11.8%と高い。

(4)「食」に関する不満点について

- 前回の旅行における「飲食に関連して不満に思ったこと」を尋ねた結果、「特に無かった」とした回答が **44.5%**と最も多く、ほぼ半数を占めた。次いで「値段が高かった」とした回答が 22.5%であり、「おいしくなかった」「地域の個性が無かった」「店の選択肢が少なかった」などの回答も 10%強ずつ見られた。

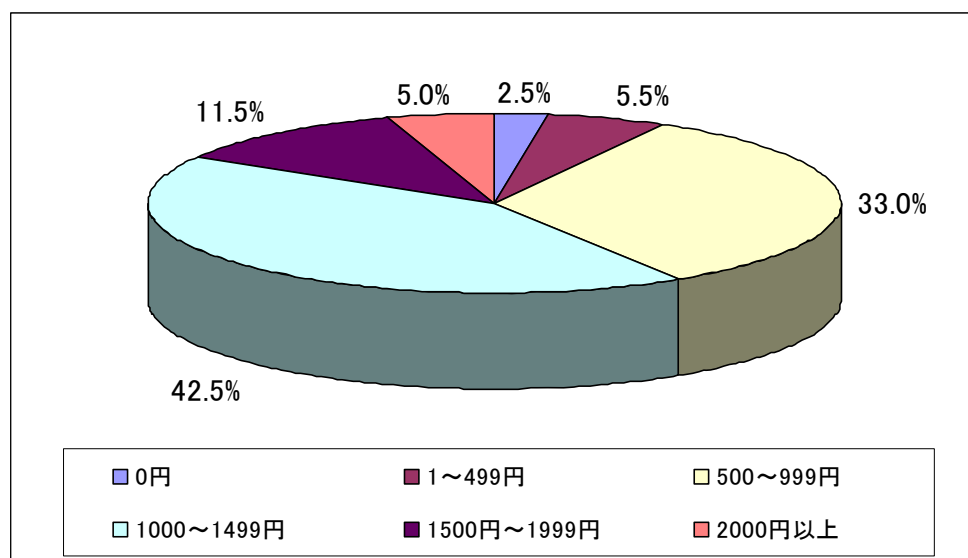


- 年齢別に見ると、20代は「値段が高かった」(29.3%) および「接客サービスが悪かった」(12.1%) が他年齢層に比べて高く、他年齢層では「おいしくない」(40代 17.6%)、「料理技術が未熟」(50代 11.1%) など食事内容に関する不満が目立つ。
- 男女別に見ると、「値段が高かった」において男性が 27.3%、女性が 15.2%と大きな差が出ている。また、「おいしくない」「地域の個性が無かった」(各男性 14.0%、12.4%) と食事内容について男性から、「店の雰囲気が悪い」「店の選択肢が少ない」(各女性 7.0%、20.3%) と食事以外の内容について女性から不満が出ている。
- 旅行志向別に見ると、「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「接客サービスが悪い」(16.3%)「店の選択肢が少ない」(18.6%) とする回答が多く、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は、「おいしくなかった」(14.7%)「地域の個性がなかった」(13.7%) とした回答が多い。

2. 「食」に関して支払い可能な限度額

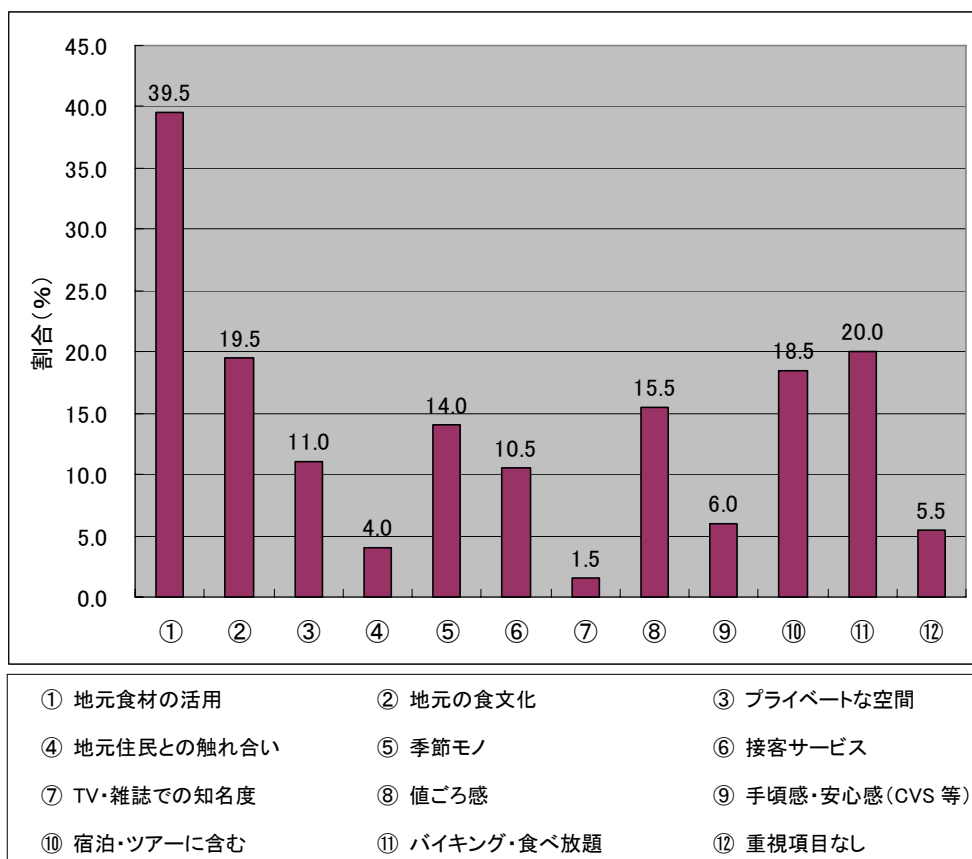
(1)朝食について

- 今後、旅行する際に朝食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「1000～1499円」とした回答が最も多く42.5%、次いで「500～999円」とした回答が33.0%であった。1500円未満の回答が8割以上を占め、朝食に対しては高い金額を支払うことに消極的な傾向が見られた。



- 年齢別に見ると、中高年層において支出金額が高い傾向が見られ、20代以下で最も多い回答は「500～999円」(39.7%)となっており、30代以上では「1000～1499円」(30代50.9%、40代45.1%、50代27.8%)が最も多い回答となっている。
- また、50代の回答者では「1500～1999円」(22.2%)が他回答者層と比べて高い傾向がある。
- 男女別に見ると、女性の方が多く支出をする傾向がある。具体的には、「500～999円」とした回答が男性37.2%、女性26.6%、「1000～1499円」とした回答が女性48.1%、男性38.8%となっている。
- 旅行志向別に見ると、それほど特徴的な差は見られないが「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が若干高い傾向が見られる。「1500～1999円」とした回答は、「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者では、18.6%を占めている。

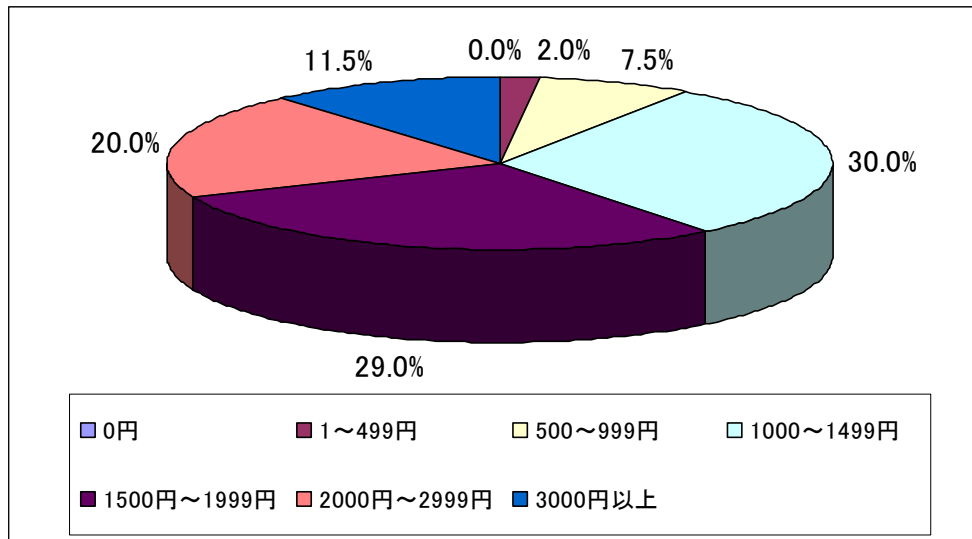
- 今後、旅行する際に朝食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が **39.5%**と飛び抜けて高かった。その他、「バイキングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」「地元の食文化が感じられる」「宿泊代やツアー代に含まれている」とした回答が 20% 前後となった。



- 年齢別に見ると、それほど特徴的な差は見られないが、50代における「地元産食材を活用している」(44.4%) および 30代における「その季節にしか味わえない旬のものがある」(21.1%) が他回答者層に比べて高い傾向がある。
- 男女別に見ると、男性において「地元の食文化が感じられる」(22.3%)、「その季節にしか味わえない旬のものがある」(17.4%)、「値ごろ感がある」(18.2%) とした回答が高い。
- 一方、女性では「宿泊代・ツアー代に含まれている」(26.6%) とした回答が多い。
- 旅行志向別に見ると「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「地元産食材を活用している」(51.2%)、「地元の食文化が感じられる」(30.2%) とした食事の内容に関する回答が高い。
- 一方、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は「宿泊代・ツアー代に含まれる」(21.6%)、「バイキングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」(21.6%) とした提供のシステムに関する回答が多い。

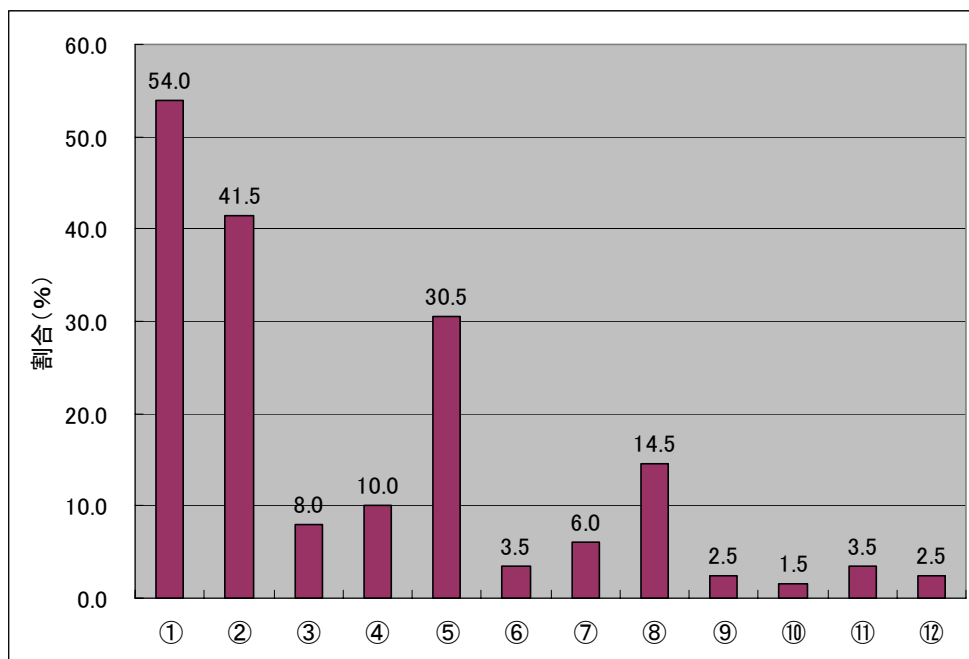
(2) 昼食について

- 今後、旅行する際に昼食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「1500～1999円」とした回答が最も多く 29.0%、次いで「1000～1499円」とした回答が 30.0%であった。比率は異なるものの、「1000円代」の回答が現状での支出額と同様 6割を占め、昼食に対しては 1000円代に収めたいと考える旅行者が多いことが分かる。



- 年齢別に見ると、それほど特徴的な差は見られない。
- ただし、「500～999円」とした回答において、20代は 12.1%と他年齢層に比べて高い値となっている。
- 男女別に見ると、女性の方が支出額が高い傾向が見られ、女性で 1000円未満の回答をした回答者は 3.8%にとどまった（男性 13.2%）。
- ただし、女性で最も多い回答は「1000～1499円」で 34.2%、男性で最も多い回答は「1500～1999円」で 31.4%となっている。
- 旅行志向別に見ると、「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が高い傾向が見られ「2000～2999円」とした回答が最も多く 34.9%となった。また、「3000円以上」とした回答も 16.3%にのぼっている。
- 一方、「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は「1000～1499円」とした回答が最も多く 35.3%となっている。

- 今後、旅行する際に昼食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が 54.0%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 41.5%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 30.5%となった。「値ごろ感がある」とした回答が 14.5%で第 4 位に挙がるものの、第 3 位までの食事内容について地域性・季節性を求めるニーズが強いことが分かる。

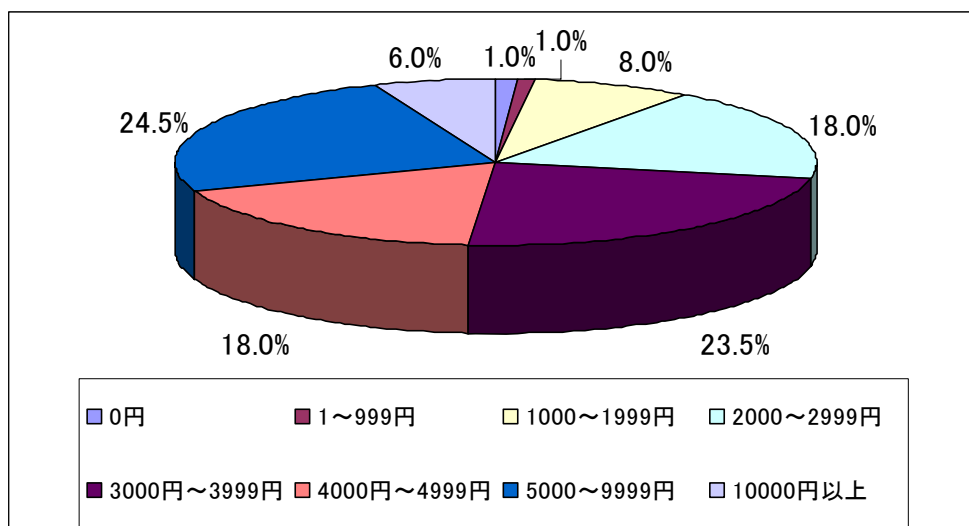


① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

- 年齢別に見ると、年齢層による特徴的な違いはそれほど見られない。
- 男女別に見ると、「地元産食材を活用している」（女性 47.1%、男性 64.6%）とする回答が女性において高い。
- 一方で、男性においては「値ごろ感がある」（男性 17.4%、女性 10.1%）、「特に何も重視しなかった」（男性 4.1%、女性 0.0%）とした回答が女性に比べて高い。
- 旅行志向別に見ると「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、「地元産食材を活用している」とした回答が 65.1%と高い。
- 一方で「観光名所訪問」を旅行目的として重視している回答者は、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 32.4%と高くなっている。

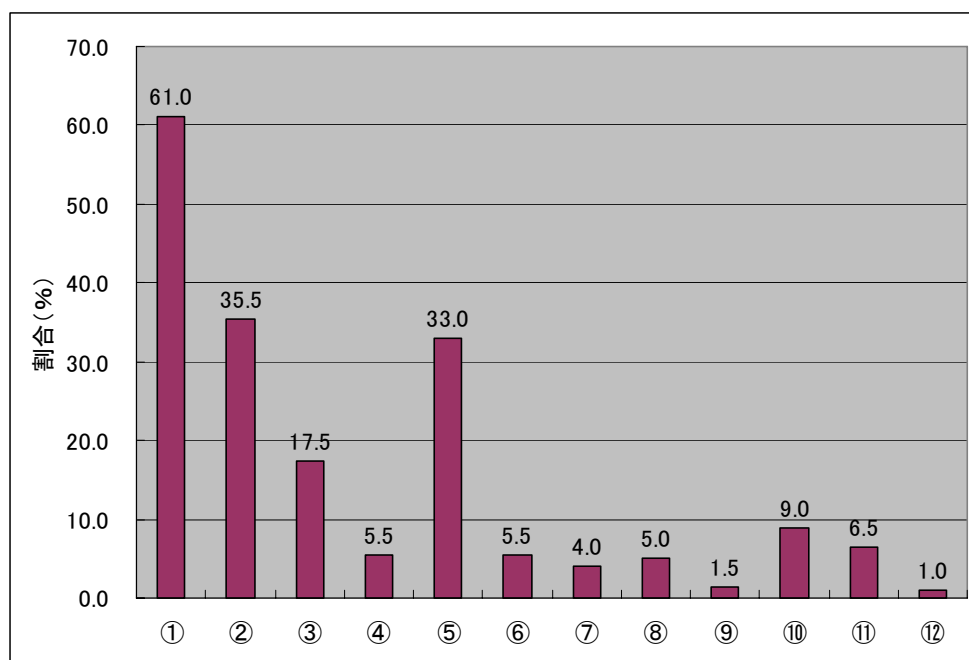
(3) 夕食について

- 今後、旅行する際に夕食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「2000～2999円」「3000～3999円」「4000～4999円」「5000～9999円」とした回答がそれぞれ20%前後を占めていた。旅行者の夕食に対する考え方が一様でなく、様々に異なることが推測される。



- 年齢別に見ると、それほど特徴的な差は見られないが、20代については若干支出額が低い傾向があり3000円未満とした回答も34.5%にのぼった。
- なお、30代がもっとも支出額が多い傾向があり、5000円以上とした回答が40.3%にのぼっている（5000～9999円29.8%、10000円以上10.5%）。
- 男女別に見ると、女性の方が支出額が高い傾向が見られる。女性で最も多い回答は「5000～9999円」で26.6%、男性で最も多い回答は「3000～3999円」で24.8%となっている（ただし男性の第2位は「5000～9999円」で23.1%）。
- 旅行志向別に見ると、「グルメ（おいしい食）が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者は、支出金額が高い傾向が見られ、「5000～9999円」とした回答が39.5%と非常に多い。

- 今後、旅行する際に夕食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が 61.0%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 35.5%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 33.0%となった。昼食と同様に食事内容について地域性や季節性を求めるニーズが強い一方で、「値ごろ感がある」とした回答は 5.0%にとどまっている。

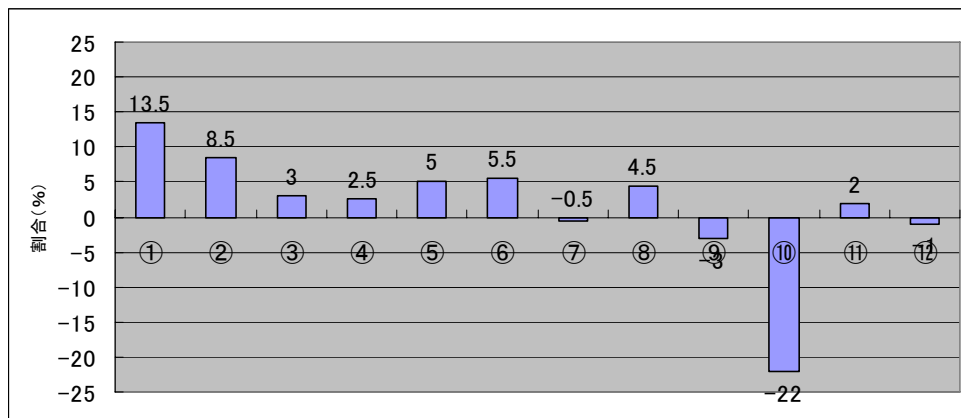


① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

- 年齢別に見ると、どの年齢層においても「地元産食材を活用している」とした回答が圧倒的に多い。
- また、特徴的なのは 50 代の「地元の食文化が感じられる」(50.0%)、「その季節にしか味わえない旬のものがある」(44.4%) とした回答が他年齢層に比べて高い点である。
- 男女別に見ると、「地元の人と触れあいながら賑やかに食事が出来る」(8.3%)、「値ごろ感がある」(7.4%) とした回答が男性において高く、「地元産食材を活用している」(69.6%) とした解答が女性において高い。
- 旅行志向別に見ると「グルメ(おいしい食)が楽しめる」ことを旅行目的として重視している回答者が、「地元の食文化が感じられる」(51.2%) とした回答が多い以外、特徴的な違いは見られない。

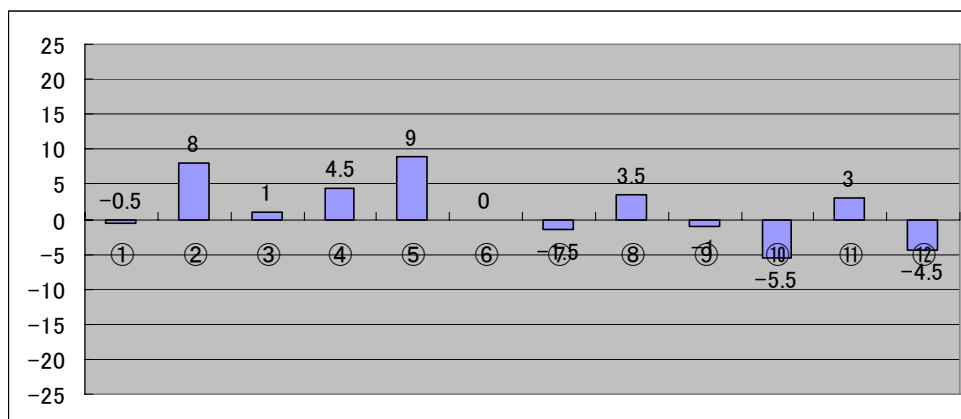
3. 限度額支払い時と現状間における重視項目の比較

(1) 朝食について



- ・ 「地元食材の活用」および「地元の食文化」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 「宿泊・ツアーに含む」については、現状に比べて最大限支払い時は重視する傾向は弱い。

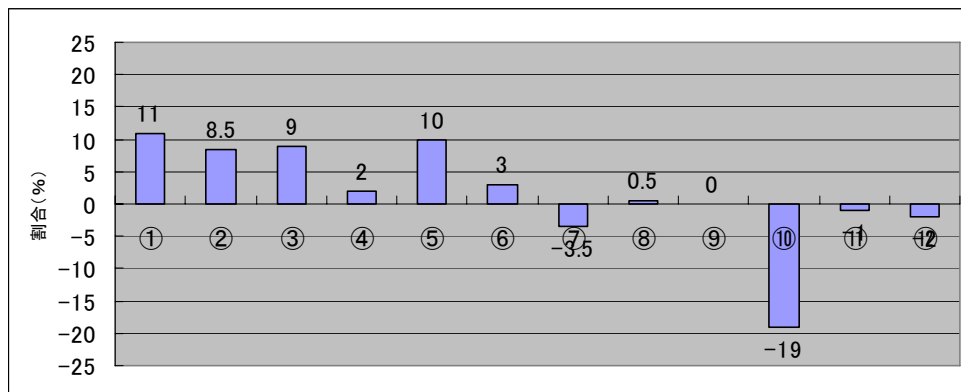
(2) 昼食について



- ・ 「地元の食文化」および「季節モノ」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 「宿泊・ツアーに含む」については、現状に比べて最大限支払い時は重視する傾向は弱い。

① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

(3) 夕食について



- ・ 「地元食材の活用」、「地元の食文化」、「プライベートな空間」および「季節モノ」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 「TV・雑誌での知名度」および「宿泊・ツアーに含む」については、現状に比べて最大限支払い時は重視する傾向は弱い。

① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

北海道全域(釧根地域以外)における実施結果

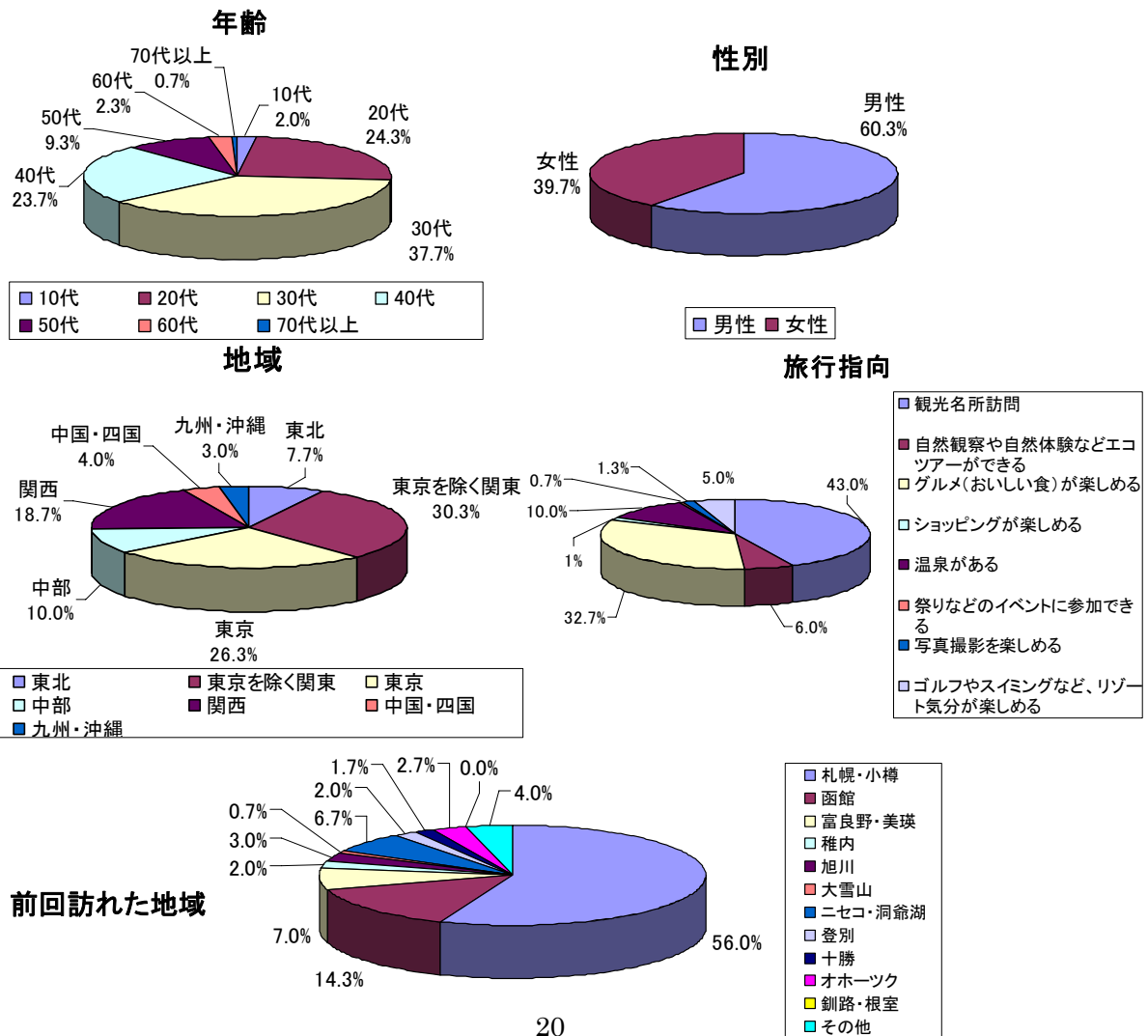
目次

- 4. 現在の「食」に関する消費実態..... 19
- 5. 「食」に関して支払い可能な限度額..... 26
- 6. 限度額支払い時と現状間における重視項目の比較..... 33

実施概要

同調査の実施概要は以下の通りである。

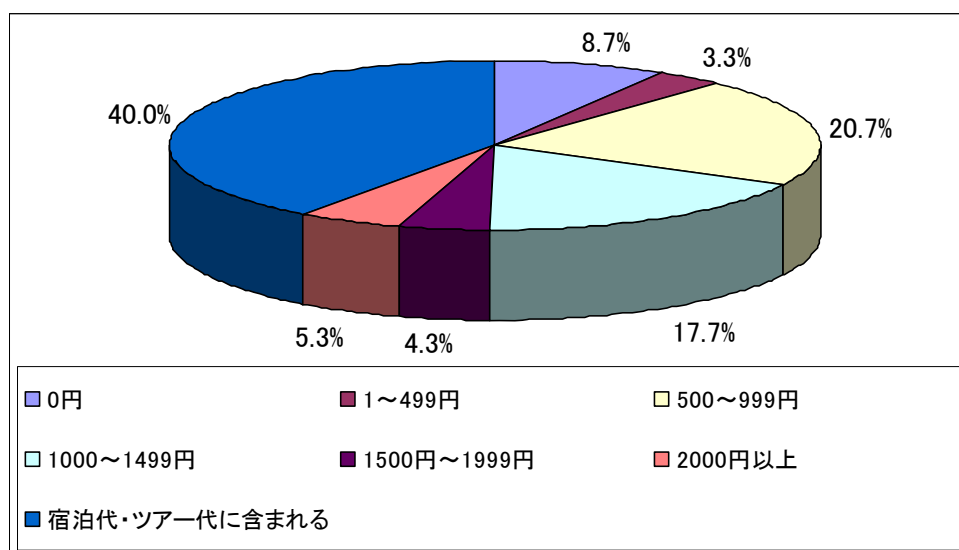
- 調査時期 : 平成 17 年 11 月
- 調査対象 : 北海道を除く全国 18 歳以上の男女で、1 年以内に北海道全域へ来訪経験のある人
- 調査方法 : インターネット調査
- 調査数 : 300 票
- 回答者属性 : 以下の通り



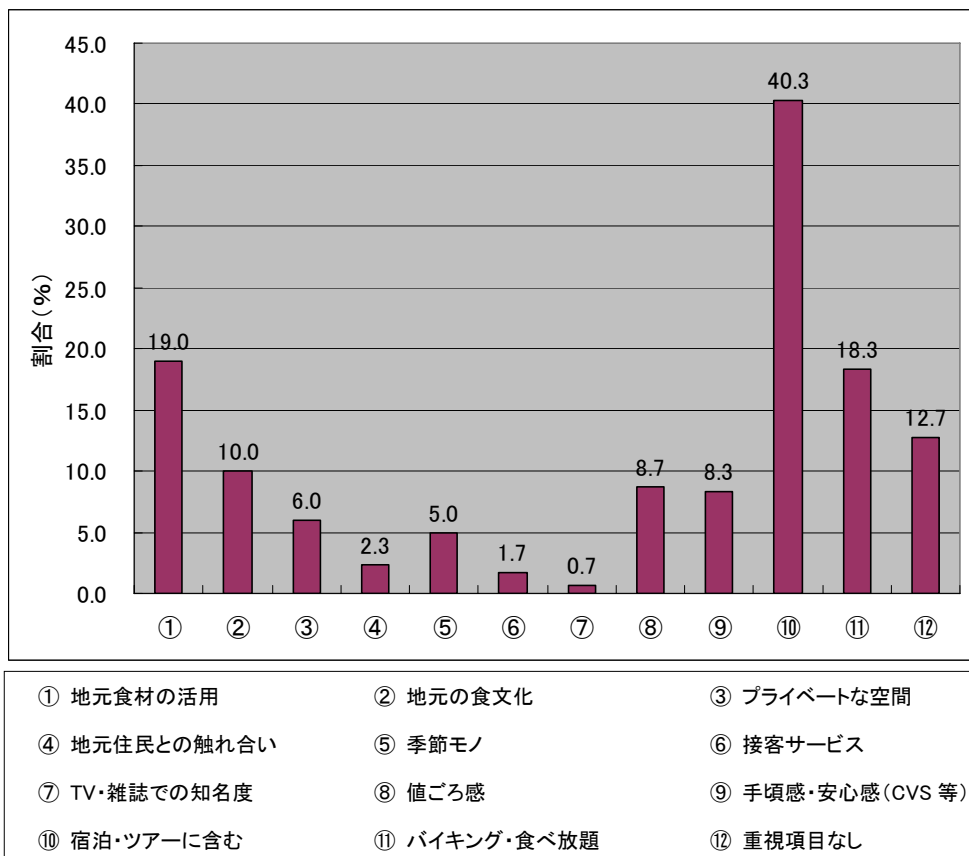
4. 現在の「食」に関する消費実態

(1)朝食について

- 「朝食に費やした費用（1回当たり平均）」を尋ねた結果、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とする回答が40.0%に上った。これを除くと「500～999円」とする回答が20.7%、「1,000～1,499円」とする回答が17.7%となっている。7割以上の旅行者は朝食に新たに支出する金額が1000円未満であることが分かる。これは釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。

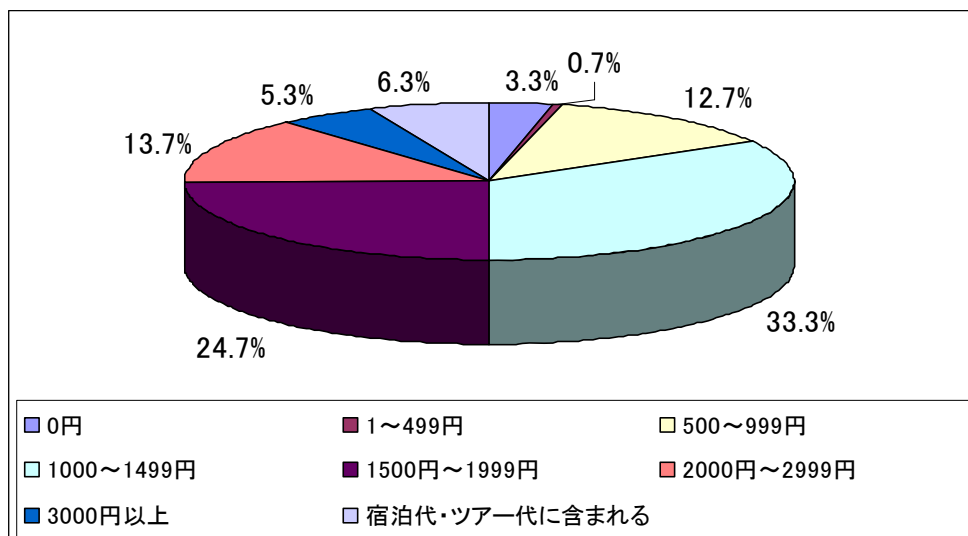


- 朝食について「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「宿泊・ツアーに含まれていた」とした回答（40.3%）を除くと、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く19.0%であった。これは昼食や夕食と共通した傾向である。次いで「バイキングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」とした回答が18.3%にのぼった。これは昼食や夕食には見られない特徴である。地元でとれた食材を味わいたいという欲求が目立つ一方で、バイキング形式の朝食に対するニーズも強いことが分かる。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。

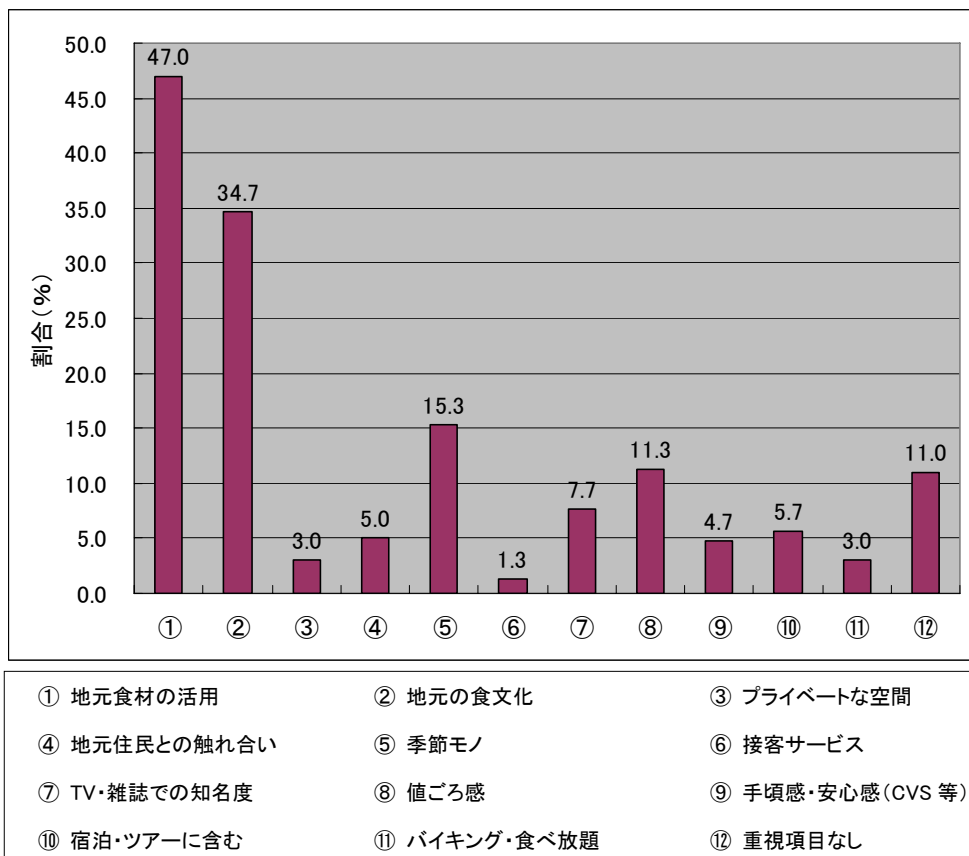


(2) 昼食について

- ・ 前回の旅行における「昼食に費やした費用 (1 回当たり平均)」を尋ねた結果、「1000～1499 円」とした回答が最も多く 33.3%、次いで「1500～1999 円」とした回答が 24.7%となっており、約 6 割の旅行者が 1000 円台の昼食を取っていることが分かる。昼食において「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答は 6.3 と、40.0%にのぼった朝食における値に比べるとかなり低い結果となった。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。

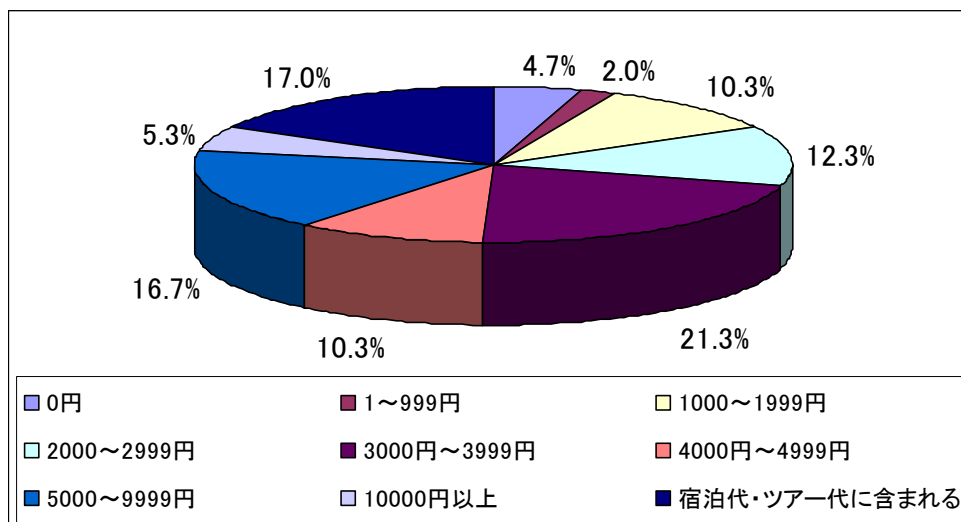


- ・ 前回の旅行の昼食時における「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く 47.0%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 34.7%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 15.3%となっており、食事内容に地域性・季節性を求めている結果となった。 釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。

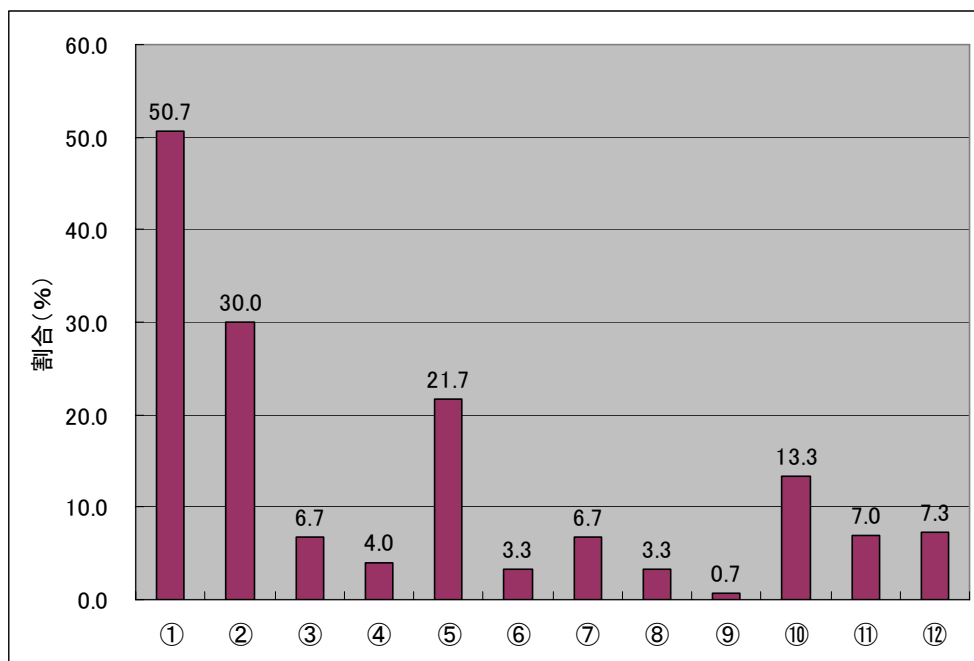


(3)夕食について

- ・ 前回の旅行における「夕食に費やした費用(1回当たり平均)」を尋ねた結果、「3000～3999円」とした回答が最も多く21.3%となっている。その他の各支出金額に対する回答はそれぞれ10～15%でばらついた結果となっており、朝食や昼食に比して夕食ではより多様な形態の食事が取られていることが推測される。釧路・根室地域と比べると、様々な形態が存在する傾向は同じであるが、「宿泊代・ツアー代に含まれる」とした回答が17.0%と少なくなっている。(釧路・根室地域 32.5%)



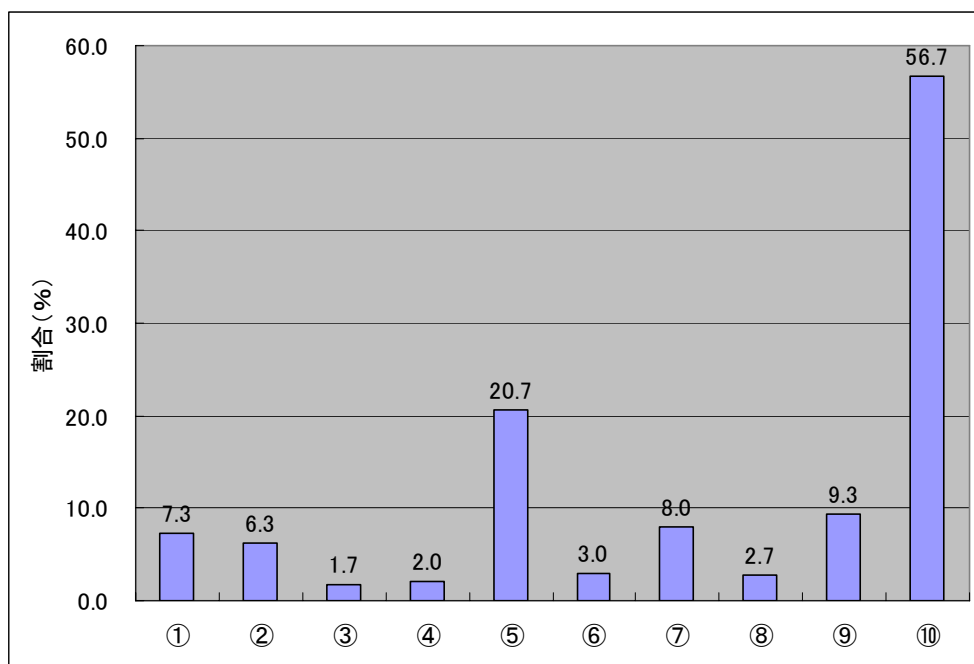
- 前回の旅行の昼食時における「食事場所や内容を決める際に重視したこと」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が最も多く 50.7%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 30.0%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 21.7%となっており、昼食時と同順位となっている。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。



① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイクング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

(4)「食」に関する不満点について

- 前回の旅行における「飲食に関連して不満に思ったこと」を尋ねた結果、「特に無かった」とした回答が **56.7%**と最も多く、半数以上を占めた。次いで「値段が高かった」とした回答が 20.7%であり、「時間がかかった」「店の選択肢が少なかった」などの回答が 10%弱ずつ見られた。釧路・根室地域と比べると、全体として不満は少ない。釧路・根室地域で挙がっていた「おいしくなかった」「地域の個性がなかった」等の回答の割合も低くなっている。

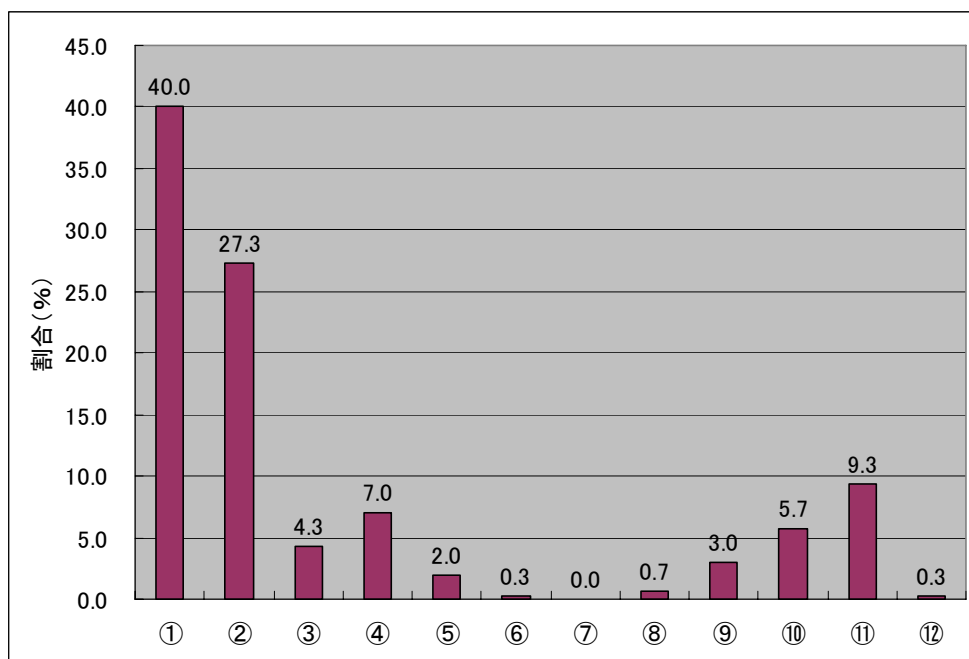


① おいしくない	② 地域の個性がない	③ 地元食材使っていない
④ 料理技術が未熟	⑤ 値段が高い	⑥ 店の雰囲気が悪い
⑦ 時間がかかった	⑧ 接客サービスが悪い	⑨ 店の選択肢が少ない
⑩ 特になし		

5. 「食」に関して支払い可能な限度額

(1) 訪れたい地域について

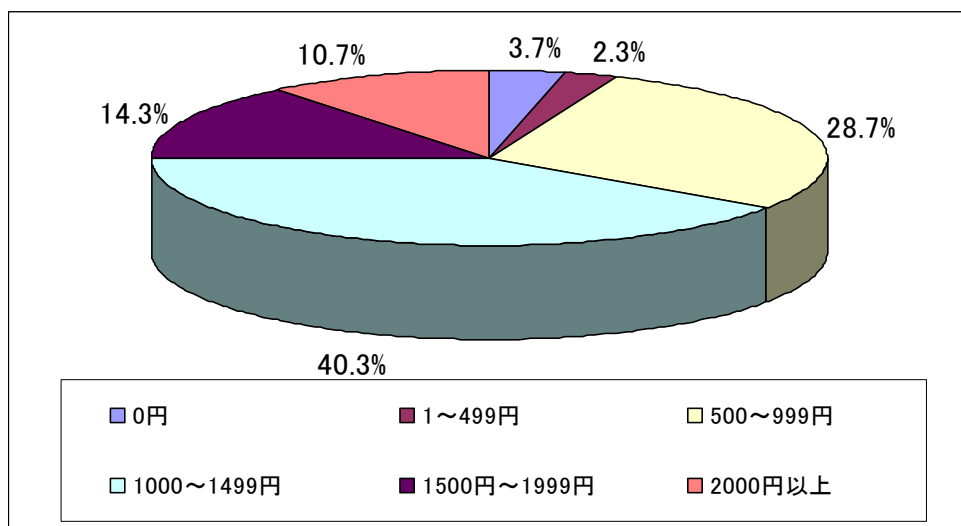
- 今後、「食事を楽しみに訪れてみたい地域」を訪ねた結果、「札幌・小樽」とした回答が40.0%となった。次いで「函館」とした回答が27.3%、**第3位に「釧路・根室」(9.3%)**、**第4位に「知床(ウトロ・羅臼)」(7.0%)**となっている。



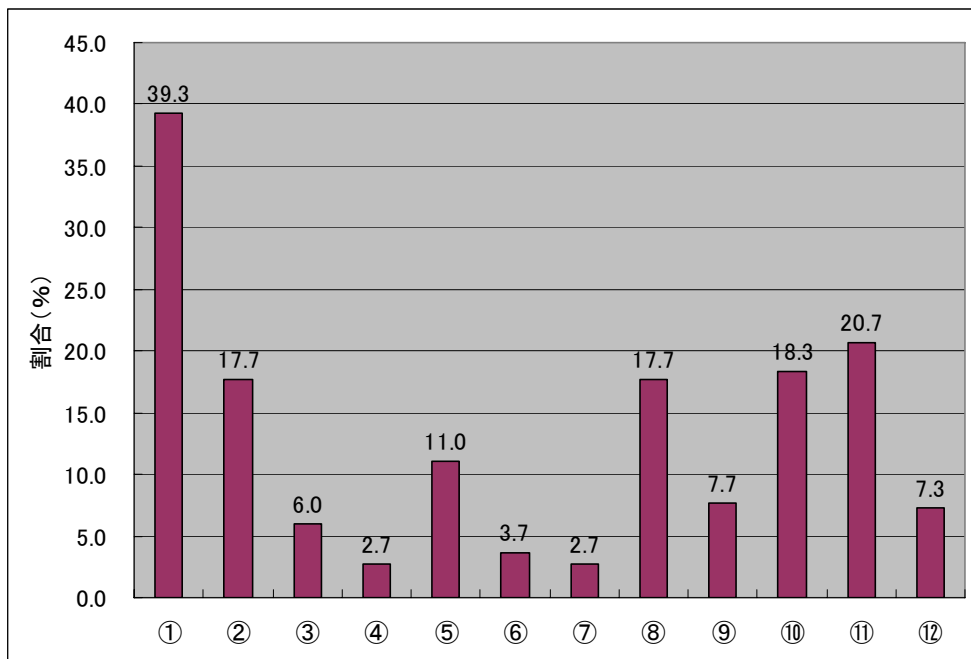
① 札幌・小樽	② 函館	③ 富良野・美瑛
④ 知床(ウトロ・羅臼)	⑤ 旭川	⑥ 大雪山
⑦ 洞爺湖	⑧ 登別	⑨ 十勝
⑩ オホーツク	⑪ 釧路・根室	⑫ その他

(2)朝食について

- 今後、旅行する際に朝食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「1000～1499円」とした回答が最も多く40.3%、次いで「500～999円」とした回答が28.7%であった。1500円以上の回答も約25%見られ、釧路・根室地域（16.5%）と比べると朝食に対して高い金額を払う傾向が見られた。



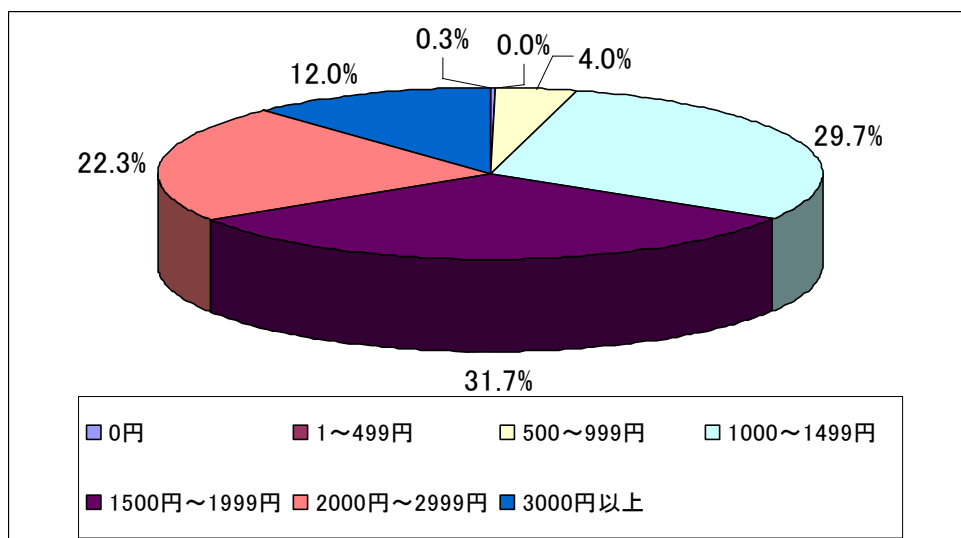
- 今後、旅行する際に朝食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が **39.3%**と飛び抜けて高かった。その他、「バイキングや食べ放題など好きなものを好きなだけ選べる」「宿泊代やツアー代に含まれている」とした回答が 20%前後となった。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。



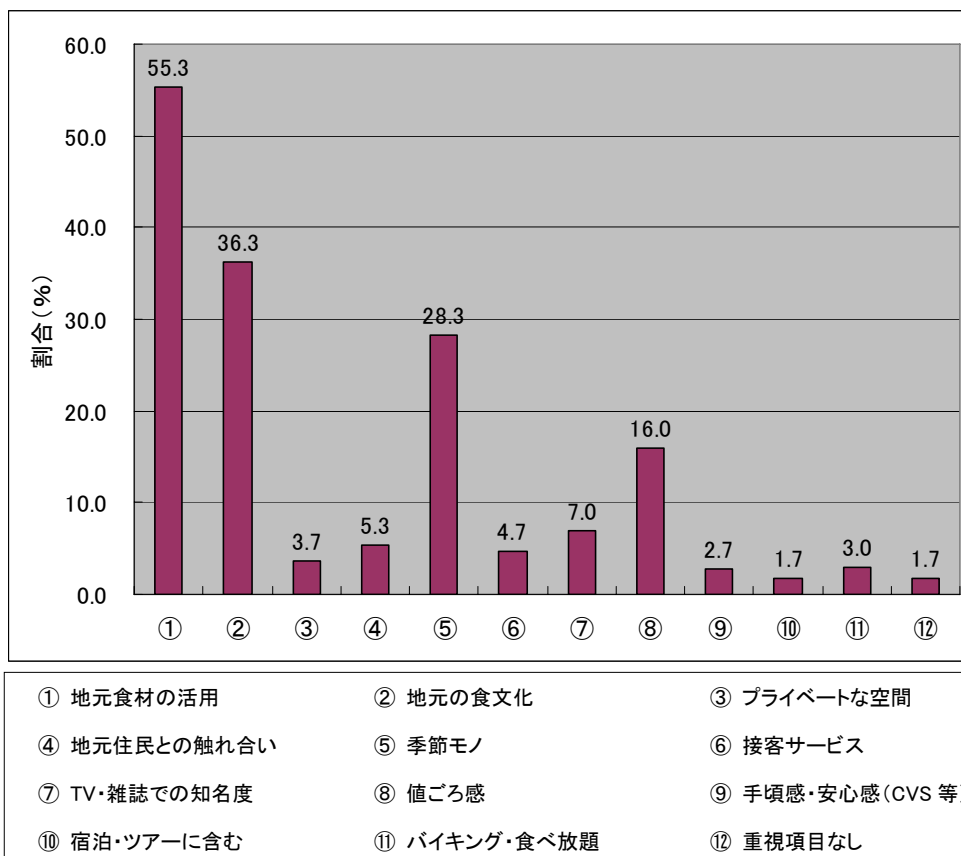
- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| ① 地元食材の活用 | ② 地元の食文化 | ③ プライベートな空間 |
| ④ 地元住民との触れ合い | ⑤ 季節モノ | ⑥ 接客サービス |
| ⑦ TV・雑誌での知名度 | ⑧ 値ごろ感 | ⑨ 手頃感・安心感(CVS等) |
| ⑩ 宿泊・ツアーに含む | ⑪ バイキング・食べ放題 | ⑫ 重視項目なし |

(3) 昼食について

- 今後、旅行する際に昼食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「1500～1999円」とした回答が最も多く 31.7%、次いで「1000～1499円」とした回答が 29.7%であった。比率は異なるものの、「1000円代」の回答が現状での支出額と同様 6割を占め、昼食に対しては 1000円代に収めたいと考える旅行者が多いことが分かる。
釧路・根室地域と比較すると、若干高い金額を払う傾向にある。

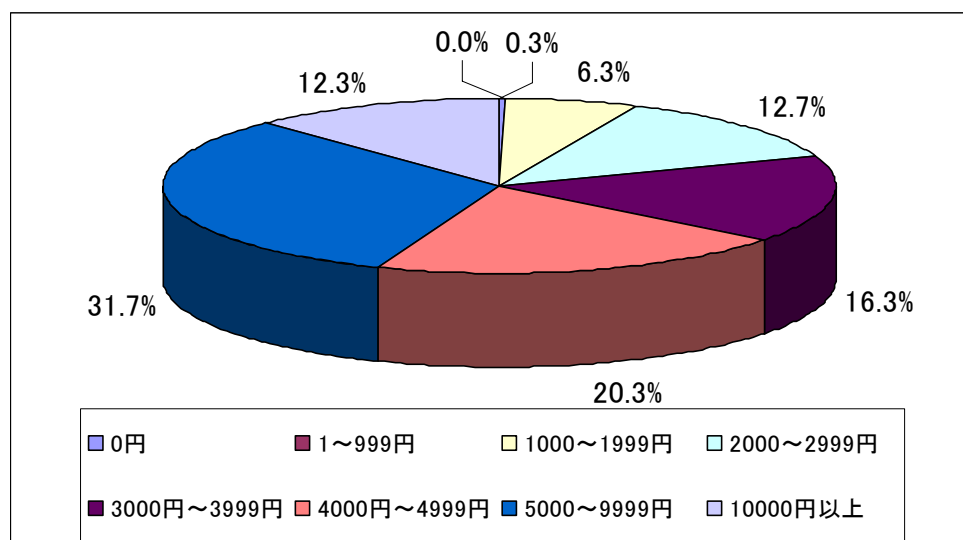


- 今後、旅行する際に昼食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が 55.3%、次いで「地元の食文化が感じられる」とした回答が 36.3%、「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 28.3%となった。「値ごろ感がある」とした回答が 16.0%で第 4 位に挙がるものの、第 3 位までの食事内容について地域性・季節性を求めるニーズが強いことが分かる。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。

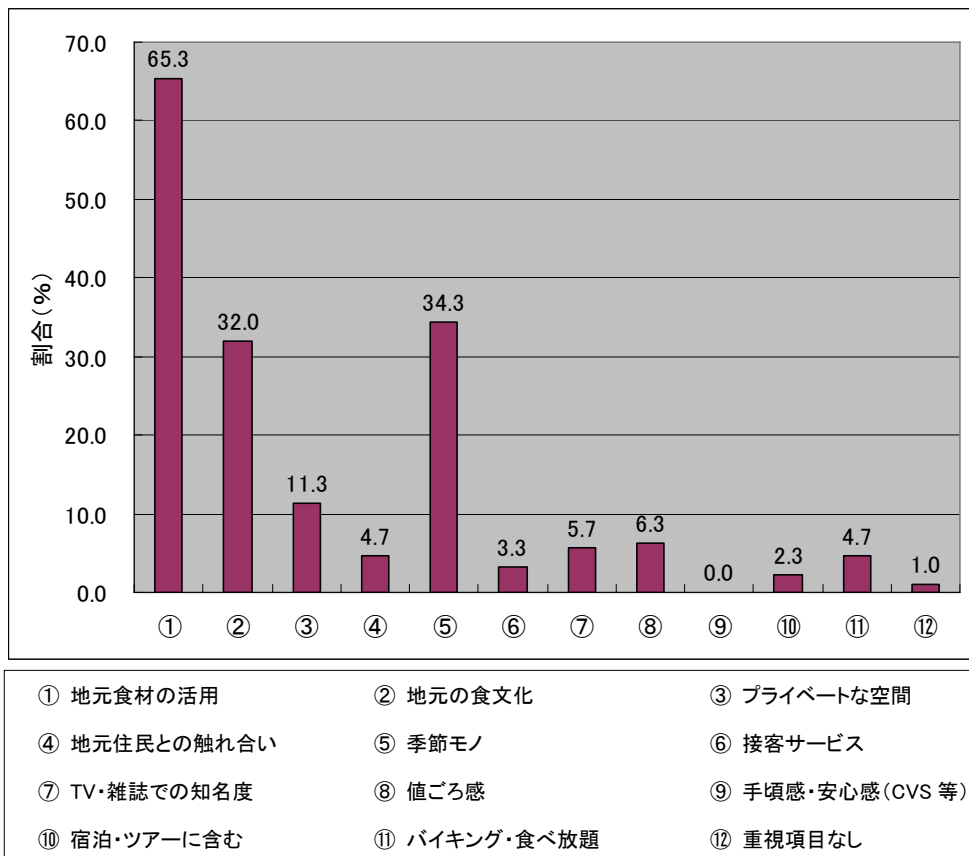


(4)夕食について

- 今後、旅行する際に夕食に「最大限支出できる金額」を尋ねた結果、「5000～9999円」とした回答が最も多く 31.7%、次いで「4000～4999円」とした回答が 20.3%、「3000～3999円」とした回答が 16.3%である。釧路・根室地域と比べて、金額が高い傾向にある（釧路・根室地域は上記項目についてそれぞれ 24.5%、18.0%、23.5%）。

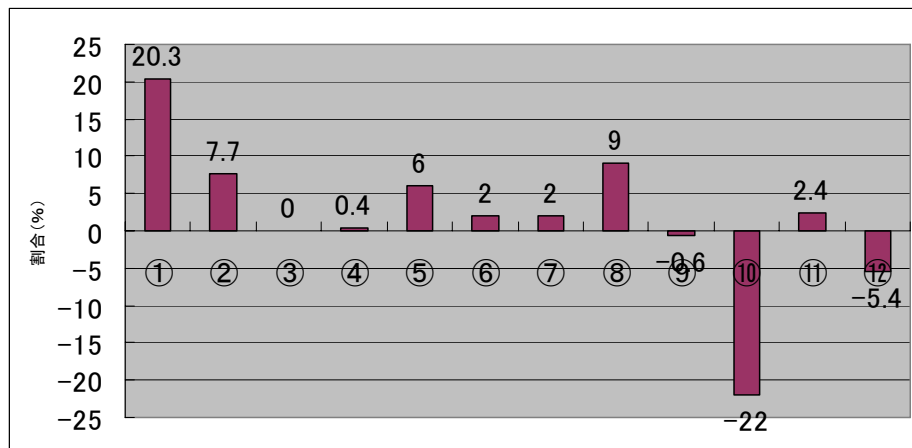


- 今後、旅行する際に夕食に最大限支出できる金額を支払う場合の「重視する項目」を尋ねた結果、「地元産食材を活用している」とした回答が 65.3%、次いで「その季節にしか味わえない旬のものがある」とした回答が 34.3%、「地元の食文化が感じられる」とした回答が 32.0%となった。昼食と同様に食事内容について地域性や季節性を求めるニーズが強く、そのほかの回答は 10%程度以下となっている。釧路・根室地域とほぼ同様の傾向である。



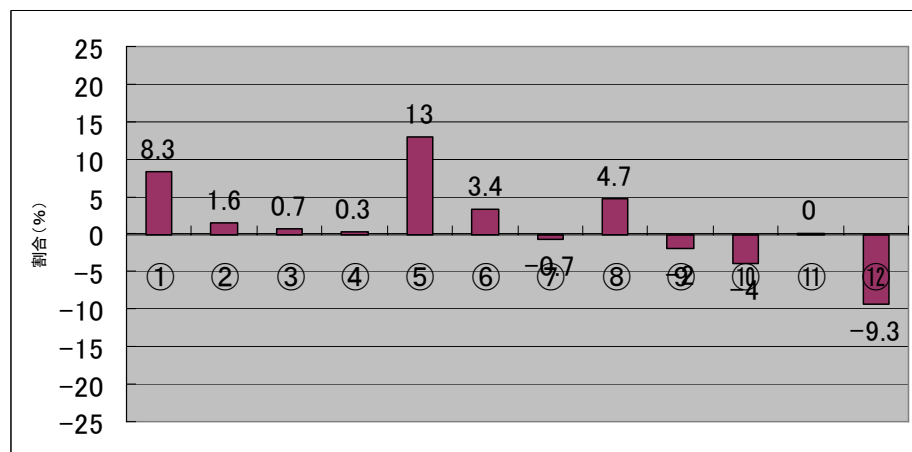
6. 限度額支払い時と現状間における重視項目の比較

(1) 朝食について



- ・ 「地元食材の活用」、「地元の食文化」、「季節モノ」および「値ごろ感」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 「宿泊・ツアーに含む」については、現状に比べて最大限支払い時は重視する傾向は弱い。

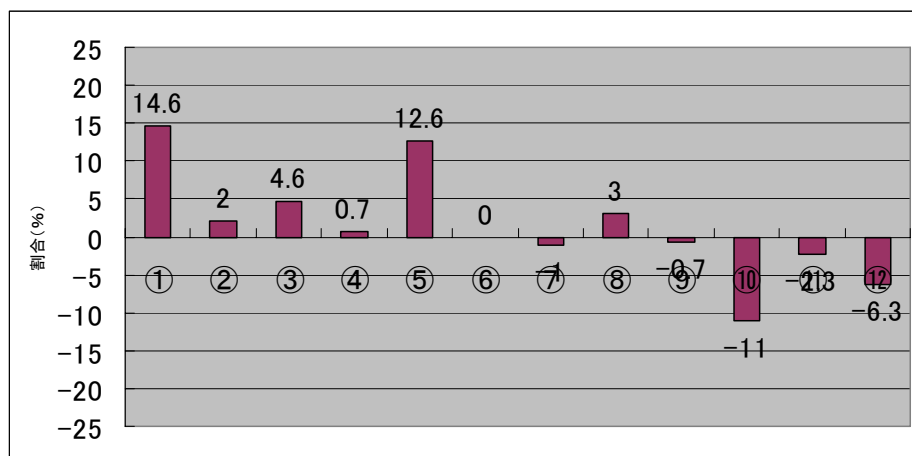
(2) 昼食について



- ・ 「地元の食文化」および「季節モノ」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 現状に比べて最大限支払い時に重視する傾向が、特徴的に弱い項目は見当たらない。

① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし

(3) 夕食について



- ・ 「地元食材の活用」および「季節モノ」について、現状に比べて最大限支払い時の方が重視する傾向が強い。
- ・ 「宿泊・ツアーに含む」については、現状に比べて最大限支払い時は重視する傾向は弱い。

① 地元食材の活用	② 地元の食文化	③ プライベートな空間
④ 地元住民との触れ合い	⑤ 季節モノ	⑥ 接客サービス
⑦ TV・雑誌での知名度	⑧ 値ごろ感	⑨ 手頃感・安心感(CVS等)
⑩ 宿泊・ツアーに含む	⑪ バイキング・食べ放題	⑫ 重視項目なし